
境界線というもの

弓月 矢月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

境界線というもの

【Nコード】

N9921S

【作者名】

弓月 矢月

【あらすじ】

村の風習の為、海に流された少女と”海賊”という不名誉な烙印を押された大型船に乗る青年との物語。
理不尽と言う名の境界線を飛び越えて一

EP 1 ―冷たさ、温もり。―

寒い・・・サムイ

冷たくて・・・暗い。

僕は・・・なんでこんな所に居るんだっけ。

あ・・・そうだ。村祭りの日。

僕は大人達に箱に詰められて、そのまま海に流されたんだっけ。

『お前は、村の為に役目を果たせ。』

『カミサマ守様に嫁ぎ、メガミサマ女守様となれ』

『お前の命一つでこの村は助かるんだ。それがお前の役目であり、存在理由。』

2

『村の為に身を捧げるんだ』

僕を箱に詰め、海に流した大人達が口々に言った言葉。

存在しているかどうかさえ判らない。そんな得体の知れない者に嫁

ぐのか僕は・・・

カミサマ守様に嫁ぐ・・・それ即ち・・・死か・・・。

あーあ。何も見えない・・・何も感じない・・・

何をするにも身体が動かない・・・

もう、息をするのも考えるのも億劫だ・・・

もう・・・辞めてしまおうか。

何もかも・・・。

でも最期にせめて世界を見てみたかったな――

意識を手放そうとした瞬間。
ざわざわと人の声がした

「おい！！お前！！生きてるか！？目を覚ませ！！」

誰かが頬を軽く叩いてくる。
温かい。

さっきまで何も感じなかったのに、僕の頬を誰かが叩くたびに感じる誰かが僕の傍に居るという久方ぶりの感覚。
心地がいい。どうせ意識を手放して死ぬならならこういう気持ちのいい感覚の中がイイや。

「目を覚ませ！！」

「っ！！」

バシッと乾いた音がしたと思えば頬に走った鋭い痛み。
熱い。痛みに耐えきれず涙を流し、そっと目を開けると青年が僕の顔を覗き込んでいた。

その向こうに黒のベースに光の粒達。思わず見とれた。

「良かった…！立てるか？そのカッコじゃ、寒いだろ。服貸してやるから付いて来い。」

青年が手を差し伸べてきた。

「・・・ありがとう」

箱の中で動かなかった手をなんとか動かし、青年の手を取る。脚に力を入れ立ち上がろうとする。だが、うまく力が入らず立てない。

「立てねえか？しょうがねえな。」

青年がひよいと僕の身体を抱き上げ歩きだす。

濡れた身体に風が冷たい。凍えて仕舞うんじゃないかと言うぐらいだけど、青年の身体から伝わる温もりが其れを感じさせない。

ふわふわと浮かぶ感覚が夢の中に居る様で。ずっとこのままでもいいと思った。

「着いたぞ。」

辿り着いた部屋に入ると、ベットにぼすりと降ろされる。

青年は、部屋に吊るしてあったシャツと短パン、タオルを僕に差し出す。

僕はそれを受け取り、濡れた服を脱ぐ為裾に手をかける。

「っ！！待て！！脱ぐなら俺が部屋から出てからにしろ！！」

青年が慌てたように僕の手を掴む。

心なしか顔が赤い。どうしたのだろうか。

「お前っ・・・仮にも女の子なんだから男の前で堂々と服脱ぐなよ・
・・・」

？女の子・・・？女の子で何が悪いのだろうか。よくわからない。
だけどやはり青年は困ったような顔しているので袖から手を離す。

「よし。じゃあ、俺部屋出るから。着替えたら、声かけるなり、手を叩くなり合図送ってくれ。」

「うん・・・。わかった。」

こくりと首を縦に振ると青年は扉を開けて出て行った。

其れを確認してから服を脱ぎ、先程借りたタオルで濡れた身体を拭いて服を着る。

少し大きいかな？ぶかぶかだ。思わずクスリと吹き出してしまう。

「まだかー？」

扉の向こうから声がする。

僕は慌てて返事をした。

「ちょっとぶかぶかだな。でもまあ服が乾くまで我慢してくれよ。」

苦笑しながら僕の頭をなでる。

「今日はもう遅いから、船長の所に連れてって、皆に紹介するのは・
・翌朝で良いか。取り敢えず寝な。」

「うん。」

言われた通り横になり目を伏せる。
また目を覚ましたら、きちんとお礼しなきゃ・・・な・・・。

EP1 ―冷たさ、温もり。―（後書き）

初めまして、弓月矢月と言います。

オリジナルの小説書くのは初めてですよ。いやホント。

昔よくあったといわれる残酷な風習と、海賊をイメージして書いてみた小説。

こんな駄文小説でも楽しんでいただけたら幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9921s/>

境界線というもの

2011年10月9日01時23分発行